



NY発

小池絵未の国際機関探訪

こんにちは！小池絵未です。
今回は、国連開発業務調整事務所(UNDOCO)の工藤香奈さん(くどう・かな)さんを訪ねました。

◆今回訪問した国際機関

国連開発業務調整事務所 UNDOCO

- 開発を行っている、32の国連機関で構成された「国連開発グループ」の事務局として、国連機関間の調整を進め、グループのメンバーに技術・政策のサポートを提供しています。
- 国・地域レベルでは、現在130カ国で活動する、その国の国連機関で形成された国連カントリーチームと、その代表である国連常駐調整官(RC)事務所と協力しながら、各国で国連システムが一体となって、持続可能な開発目標(SDG)の達成を目指すよう、Delivering As Oneというイニシアティブを進めています。

◆お話を聞いた方

くどう かな
工藤 香奈さん

国連開発業務調整事務所
(UNDOCO)
政策分析官
(※)本年1月取材時点。



①いつ頃、国際機関で働こうと思いましたか？

高校卒業直前の政治・経済の授業で貿易ゲームをクラスのみんで行いました。

貿易ゲームは、世界の経済状況を実感するゲームなんですけど、紙と鉛筆、はさみやコンパス等があれば出来るゲームです。

私は資源もなくお金もない国にたまたま入ったんです。このゲームをやっている30分という短い時間で、こういう世界で暮らしている人達もいるんだと思い、とても衝撃的でした。

こういう人たちのために何かできたらいいなと感じ、国際開発をやってみたいと思いました。

また、高校在学中に、フィリピンのマニラに3週間短期留学していて、大変な生活をしている人を目の前で見て、「何か自分ができることがないかな？」と思いました。

その後、青年海外協力隊(JOCV)でザンビアに行って、州政府の中で働いていたので、ポリシーレベルや国レベルで影響を与えられるのは国連しかないと思い、国連で働くことを強く思い始めました。

②どのような学歴をお持ちですか？

日本で高校2年生の時にマニラに留学しました。

その後、日本の大学に入学して外国語学部でフィリピン語を勉強しました。

開発途上国の言葉がわかればという思いで入学したのですが、実際には言語だけじゃなくて何かスキルがないと国際開発はできないと感じ、大学の途中で米国の大学(ウイスコンシン大学 オシュコシュ校)に転学しました。

そこで都市開発と地理情報システムと国際研究の3つの専攻を同時に勉強しました。

卒業後、大学院に進学する前に日本と米国とザンビアで働きました。

そして、米国のUCLAで都市地域計画を勉強するために、大学院に進学しました。



③国際機関に入る前はどのようなお仕事をしてきたのですか？

米国の大学を卒業した後に、ウイスコンシン州で地理情報システムのアシスタントの仕事を1年間して、日本に戻り、都市計画コンサルタント会社に入りました。

同時進行で青年海外協力隊(JOCV)を受けて合格したので、ザンビアで都市計画で働くことになりました。

ザンビアの州政府で2年間ルサカ州のマスタープランなどを作ったり、スラムの問題や住宅を改善する仕事に着手して、フィールドの経験を積みました。地理情報システムを使った空間分析の方法をザンビア人同僚に教えたりもしました。

その後、米国の大学院に戻りました。UCLAの大学院に通っている間も、大学院の中でリサーチアシスタントや大学院の地理情報システムの授業でティーチングアシスタントをして働き、授業料を下げてもらったりしました。

大学院を卒業後の2015年の10月頃に日本のJICAの仕事をしている開発コンサルティング会社オリエンタルコンサルタンツグローバルの都市地域開発部に入って、ネパールの地震からの復旧・復興のプロジェクトを手伝いました。

④どのような方法で国際機関に入りましたか？

大学院卒業後に日本のオリエンタルコンサルタンツグローバルの都市開発部に入って仕事をしている時に、JPOを受けていました。

2~3ヶ月待ち、全然連絡がないと思っていたら、パッと決まりました。

ちょうど開発コンサルでの仕事が面白くなってきていた時でしたが、ずっと国連で働きたいなという希望があったので、チャンスを掴もうと思い、決めました。

⑤今の仕事について詳しく教えてください！

現在、国連開発調整事務所(UNDOCO)で働いています。

UNDOCOは国連開発グループ(UNDG)の事務局として、UNDGに所属する開発を行っている32の国連機関を調整して支えており、また、各国の国連機関が構成するUNカントリーチームやその国における国連システム全体の開発活動の常駐調整官(Resident Coordinator)のオフィス(RCオフィス)と協力しています。

2015年に、2030年までに達成しないといけない「持続可能な開発目標(SDGs)」が出来たので、各国でその目標が達成できるよう、国連システム全体の開発を本部で調整することによって、世界でのSDGsの達成をサポートしています。

私はその中で、リーダーシップ・デベロップメントと、イノベーションのチームに入っています。

イノベーションのチームでは、今までやってきた開発方法を同じ様に進めるだけではなく、何か別な、新しい方法でSDGsの達成を目指そうという考えのもと仕事を進めています。

例えば、開発計画を決める際、国勢調査のデータを基本とすることが多いのですが、10年に一度のデータだけでは最新の情報がわからなかったり、国民がその国の政府に対してどういった要望をもっているのかがきちんとわからず、もしかしたら今までうまくアプローチできていなかったから「人々の望む開発」が進められてこなかったのかもしれない。

そこでRCオフィスと協力して、スマホ等を使いより多くの人にアンケートに答えてもらったり、ビッグデータを利用して、よりその国・街・村にあった開発手法が取れるよう試行・検討したりしています。

今までなかった新しい方法や政策を使って、これからの開発問題を解消していこうと本部から取り組みを推奨しているのが、イノベーションのチームで、それらのお手伝いをしています。

⑥今後のキャリアについてどのようにお考えですか？

国連開発グループ本部での2年間の経験を通して、国連システム全体が国連フィールドオフィスと各国でのSDGs達成のために尽力しており、本部でも沢山できることがあると思いましたが、やはり国連の開発分野で働く醍醐味でもあるフィールドオフィスで働きたいと考えています。

今度は、一つの国をじっくり見てみたいと思い、ヨルダンに行きたいと希望しています。

ヨルダン、シリアの隣にあるのですが、中東地域で一番安全な場所の一つでもあるので、難民が沢山入ってきています。

その難民達が定住するために何が必要だとか、受け入れ側の問題とかそういった社会的結束を促進するプロジェクトをお手伝いしたいです。

フィールドを見て勉強した後に、いずれまた国連本部に戻って来たいと思っています。



⑦国際機関を目指している方にメッセージをお願いします！

国連はいろいろな事ができますし、多くの多様な方々にも会えるので、とても楽しい場所です。

少しでも国際開発をやってみたいならば、是非目指して欲しいです。

ただ、国連の醍醐味は様々なバックグラウンドを各自持っているから面白いのだと思うので、ここに来る前に、私もJOCVをやったように、本当に多くの経験をまず積んでから目指して欲しいと思います。

日本の企業で働くのもいいし、全く同じバックグラウンドの人がいないので、全てのことが経験だと思っています。

⑧今回の取材を振り返って。感じたこと。

工藤さんの今までの経験などを色々聞いて、普段あまりじっくり考えたことのない都市問題について学ばせてもらいました。

“人がどこかに住んでいる以上、人口が増えているので、都市化が進んでいる。ニューヨークも東京も。問題が起こっていて、うまく対応ができていけばいいけど、今は対応ができていない。

住宅の問題、教育の問題、食料の問題、すべてに繋がっている。これから先、都市問題は切り離せない問題だと思う。

環境問題や難民問題に比べ、国連開発グループ全体で都市問題はまだまだ大きくは語られていないように感じるので、もっと語られるようになればいいなと思う。”

という工藤さんのお話を聞いて、私も多くのことを考えさせられました。

こういった問題を実際に自分の手で改善することに貢献されていることは素晴らしいことだと思います。



小池絵未 (Emi Koike)

1983年11月7日生まれ。東京都渋谷区出身。

高校から競技チアを開始し、3年連続で日本選手権大会第3位。米国ウェスタン・ケンタッキー大学に進学。大学のチアダンスチームに所属し、2005年全米大学チア・アンド・ダンス選手権で優勝。

その後、NHLナッシュビル・プレデターズ、アトランタ・ホークス、NHLアトランタ・スラッシャーズのダンスチームのメンバーとして活躍。2011年からはNFLのチアリーダーとしてニューヨーク・ジェッツで活躍。

NFL、NBA、NHLの米国3大スポーツリーグでチアリーダーに選出されるのは、日本人としては史上初。2013年チアリーダーを引退し、日本テレビ NFL倶楽部の現地リポーターとして活動中。ニューヨーク在住現地スポーツリポーターとして、NFLだけでなく、NBA、MLBの取材にも携わっている。

外務省 国際機関人事センターNewsletter

「小池絵未のNY発国際機関探訪」VOL.10

出演：工藤 香奈 国連開発業務調整事務所
(UNDOC) 政策分析官

取材地：NY

2018年3月15日発行



外務省 国際機関人事センター

jinji-center@mofa.go.jp / 03-5501-8238

<http://www.mofa-irc.go.jp>



<https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>